氏　　名	深　津　裕　寿
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博甲第　3311　号
学位授与の日付	平成１９年３月２３日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	Clinical characteristics of synchronous colorectal cancer are different according to tumour location （同時性多発大腸癌は腫瘍発生部位により臨床的特徴が異なる）
論文審査委員	教授　田中 紀章　教授　吉野　正　助教授　近藤 英作

学位論文内容の要旨

近年、大腸癌は腫瘍発生部位により臨床的、分子生物学的特徴が異なることが報告されている。本研究では、同時性多発大腸癌の臨床的特徴を腫瘍発生部位より検討した。対象は3061人の大腸癌患者のうち249人の同時性多発大腸癌患者である。同時性多発大腸癌の発生に関する多変量解析では、男性は左側のみに腫瘍が存在するグループの危険因子(オッズ比：2.05、95%信頼区間:1.34－3.13)である。また加齢は右側のみ及び両側に腫瘍が存在するグループの危険因子（右側：オッズ比1.05、95%信頼区間：1.02－1.08、両側：オッズ比：1.03、95%信頼区間：1.10-1.05）となるが、左側のみに腫瘍が存在しているグループに対しては危険因子とならなかった。加えて腫瘍が右側大腸のみに存在する場合、併存腺腫も右側大腸に存在し、左側大腸に存在する場合は併存腺腫も左側大腸に存在する傾向を認めた。

以上より、同時性多発癌の臨床的特徴と、併存腺種の部位は腫瘍発生部位によって変化し、これは腫瘍発生部位が患者個人によって異なることを示している。

論文審査結果の要旨

大腸癌は腫瘍存在部により臨床的、分子生物学的特徴が異なるが、本研究では3061人の大腸癌患者のうち249人の同時性多発大腸癌患者について臨床的特徴を腫瘍存在部位より検討した。

同時性多発大腸癌を発生部位に従って右側、両側、左側に分けて検討すると、男性は左側と両側のグループに多く、女性は右側グループに多く、高齢者は右側グループに頻度が高くなった。腫瘍が右側大腸のみに存在する場合、併存腺腫も右側大腸に存在し、左側大腸に存在する場合は併存腺腫よりも左側大腸に存在する傾向を認めた。

これらの同時性多発癌の臨床的特徴と、併存腺腫の部位との関連は、手術や内視鏡治療後のスクリーニングに際して資するところがあると考えられる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。